

# 花田秀太

はなだ・ひでた

誠之館教諭(地理・歴史)

## 経歴

生:明治26年(1893年)2月9日、岡山県浅口郡六條院村(現岡山県浅口市鴨方町六条院中)生まれ

没:昭和58年(1983年)3月、享年91歳

明治45年(1912年)3月24日	19歳	岡山師範学校本科第一部卒業
明治45年(1912年)3月31日	19歳	岡山県浅口郡六條院尋常高等小学校訓導
大正8年(1919年)3月31日	26歳	岡山県浅口郡里見尋常高等小学校訓導
大正9年(1920年)4月30日	27歳	(兼)岡山県浅口郡里見尋常高等小学校附設農業補習学校訓導
大正11年(1922年)3月31日	29歳	岡山県浅口郡鴨方東尋常高等小学校訓導
大正11年(1922年)4月30日	29歳	(兼)岡山県浅口郡鴨方東実業補習学校助教諭
大正13年(1924年)4月16日～ 昭和27年(1952年)3月31日	31～ 59歳	広島県立福山中学校(誠之館)教諭
昭和12年(1937年)8月2日	43歳	叙従七位
昭和14年(1939年)7月15日	45歳	叙正七位
昭和17年(1942年)4月15日	48歳	叙従六位
昭和19年(1944年)6月13日	50歳	叙勲六等瑞宝章
昭和27年(1952年)4月2日～ 昭和28年(1953年)3月31日	59～ 60歳	広島県福山東高等学校(誠之館)専任講師

## 生い立ちと学業、業績

明治26年(1893年)2月9日、岡山県浅口郡六條院村大字六條院中(現岡山県浅口市鴨方町六条院中)生まれ。

明治45年(1912年)3月24日、岡山師範学校卒業。

ただちに岡山県内の学校に奉職の後、大正13年(1924年)4月16日に福山中学校(誠之館)教諭となり、昭和28年(1953年)3月31日まで29年間にわたって勤めた。

始業の鐘が鳴るや否やすぐに教壇に立つことから、生徒に火事場に駆けつける「ホンプ」と慕われた。長年にわたって舎監を兼務した。

昭和58年(1983年)3月没、享年91歳。

## 「思いで」 花田秀太

大正から昭和にかけて、福山中学校から福山誠之館高等学校に至るまで幾度も校名の変更があり、制度の変わりもあった頃、私は三十年間勤務しました。

大方の先輩は亡くなられて、生き残りの一人となりましたので、古い記憶を思い出して見たいと思います。

大正の頃には狭い運動場が囲の外にあって、市民が自由に通行していました。寄宿舎が校外にも二ヶ所あって、深安、沼隈、神石、豊田の各郡はもとより、愛媛県の島々、岡山県の方からも舎生が居て、相当賑やかでした。

通学生は深安、沼隈が大部分で、バスも無く福塩線もなく自転車で通う者もありません。皆徒歩で、中には十キロ以上も通っていました。

山陽線を利用する汽車通学生は下りは三原糸崎、尾道、松永、上りは笠岡を中心とした各駅から通っていました。

私も鴨方駅から毎日三十二キロの通勤を続けました。

福山駅で下車すると、福島紡績の間の狭い道路を通って、十回も曲り曲って霞町の旧校舎に着くと、三吉町の校舎に記念として移転せられた玄関を土足で上って職員室に入りました。此の玄関は其の昔、我々庶民には到底足を入れる事の出来なかった由緒あるものでした。

当時は福山中学校の生徒である事は大変な誇りでありました。

校則も厳しく、カンニングや窃盗は当然の事ながら、頭髪や服装もやかましく、女学生と交際する事も話をする事さえも禁じられていました。

汽車通学生は男子は前部、女子は後部と区別していました。

今から考えるとおかしい事です。

校舎が三吉町の師範学校の跡に移転して、運動場は広くなりましたが、戦時中生徒は因島、向島、三菱等へ学徒動員として狩り出され、運動する事も出来なくなり、一時職員が芋や小麦を作っていました。

今から考えると夢のようです。

現在の所に移って設備も整い、立派になりましたが、昔を考えるとなつかしい気が一ぱいで

(出典3)

誠之館所蔵品

管理No.	氏名	名称	制作／発行	日付
02060	花田秀太 著 福山誠之館同窓会 編	『懐古－誠之館時代の思い出』、210頁	福山誠之館同窓会	昭和58年

出典1:『誠之館百三十年史(上巻)』、808,948,976,1083,1120,1122,1139,1140,1178,1190 頁、福山誠之館同窓会編刊、昭和63年12月1日

出典2:『誠之館百三十年史(下巻)』、29,61,71,244,247 頁、福山誠之館同窓会編刊、平成元年3月1日

出典3:『懐古－誠之館時代の思い出－』、210頁、「思い出」、花田秀太、福山誠之館同窓会編刊、昭和58年5月15日

2009年5月1日追加●2009年5月7日更新:経歴●2011年8月19日更新:本文・誠之館所蔵品・出典●